

●「SHINWA WALK～伝説ぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 31

有松のからくり山車伝説

伝説
ぞろ歩き

技たくみ
あけまき
総角童子
あつと驚く
釘づけに
からくり仕掛け



まつりで人気のからくり山車

巧妙な仕掛けで人々を魅了

有松まつりには3輦のからくり山車が登場。町内の東・中・西の3町からそれぞれ出され、巧妙な仕掛けで人々を魅了しています。

東町(現・橋東町)の布袋車は、延宝4年(1676年)製作の富士山車を改良し、明和5年(1768年)に製作された名古屋の玉屋町(現在の中区錦)の山車を、有松町が明治24年(1891年)に購入したもの。からくり人形は、文字書き人形、蓮台を押す唐子、布袋、陣笠を被った童子の前人形とも華麗な人形です。前人形の箱書きには天明8年(1788年)制作の墨書きがあり、二代目玉屋庄兵衛の作と推定されます。その後も長い時代にわたり、幾人かの玉屋の関係者の手によって修復。ちなみに、昭和51年(1976年)には七代目が塗り替えなどの修復をしています。

中町(現・清安町)の山車は、天保時代に知多郡内海

村の豪商・前野小平治が製作させたものを、明治8年(1875年)に有松町で購入したもの。乗せてあるからくり人形がすべて唐子であるところから、唐子車と呼ばれています。このからくり人形も文字書きを披露します。天保年間(1830～44年)から20年余りの歳月をかけて製作したものです。

西町(現・金龍町)の神功皇后車は、明治6年(1873年)に有松で製作したもので、神功皇后と武内宿弥の人形を飾っています。また、前人形の神官は目と口を開けたり閉じたりし、さらに口から舌を出す趣向となっています。平成12年(2000年)には、九代目玉屋庄兵衛がからくり人形の塗り替えの修復を担当しています。

巧妙な仕掛けと可憐な表情で、祭りに華を添えるからくり人形。人をあつと驚かすのが、からくり人形の真骨頂で、からくり人形師にとって腕の見せ所となります。からくり人形の主な制作工程は、頭、手、胴、足の順に作り、それからからくりの制作に取りかかり、最後に衣装づくりとなります。なかでも高い技術が要求されるのは、頭づくり。人形の顔、形、表情が変わらないよう、復元することが大切で、頭が彫れるようになるには、10年以上の修行が必要とい



ダイダロスと息子イカロスが 迷宮に幽閉された理由

ギリシャ神話でからくり人形師に匹敵する名工といえ、ダイダロスが有名です。もともとアテネに住む名高い大工でしたが、その腕を買われてクレタ島に渡り、ミノス王のお抱え大工になりました。建築技術や発明に優れたダイダロスは、精巧かつ奇抜な作品を次々と生み出しましたが、息子イカロスとともに迷宮に幽閉されてしまいます。その理由は……。

ポセイドンは、約束を破って生けにえを捧げなかったミノス王を懲らしめるため、ミノス王の妻・パシパエに雄牛を好きになる呪いをかけましたが、その時、ポセイドンがダイダロスに作らせたのが精巧な雌牛の張り子。パシパエはその中に入って、機会をうかがいます。ダイダロスがからくり人形師さながらの職人技で作っただけあって、本物そっくりの仕上がりになり雄牛も欲情し、パシパエは雄牛と交わることに成功。それによって誕生したのが、頭が牛で体が人間という半人半牛の怪物ミノタウロスです。

怒ったミノスはミノタウロスをクノッソス宮殿の迷宮ラビリスに閉じ込めますが、この迷宮を作ったのもダイダロスです。

そのミノタウロスを退治したのが、アテネの王子・テセウスです。当時アテネの人々はミノス王から毎年生けにえを捧げるよう要求されていて、テセウスは生けにえ



31st Letter



▲有松まつりで校会館前の駐車場に勢揃いする3輦の山車。

の一人としてクレタ島へ行くことを志願します。その際、ミノス王の娘であるアリアドネ王女から見初められ、迷宮に入っていく時、剣と糸玉を手渡され、糸玉をほどこながら入っていくことをアドバイスされますが、アリアドネにこの秘策を授けたのも、ダイダロスです。テセウスはミノタウロスが寝ている夜に迷宮に入り、ミノタウロスを退治し、アドバイス通り、帰り道に糸をたどって迷宮から脱出します。

これに激怒したのがミノス王。誰かが手助けしなければ、迷宮から生還できるわけがないと、ダイダロスの裏切りにやっと感じたミノス王は、息子のイカロスとともに迷宮に幽閉したのです。しかし、この迷宮もダイダロス自身が作ったものなので、抜け出すのはお手の物でした。

ここから先は、有名なイカロスの翼の話。ダイダロスから夢を託されたイカロスは、ロウでつけた翼で飛び立ち、クレタ島からの脱出を試みるも、有頂天になって太陽に近づきすぎて、ロウが溶け、海に墜落してしまいます。これは、技術開発に熱中するあまり環境破壊を引き起こし、やがてそれによって滅びるかもしれない人類の運命を象徴しているのかもしれない。



※次回は戦人塚伝説について特集します。お楽しみに。
■ 写真 / Kiyoshi K ■ イラスト / Rei
■ 取材・文 / Icarus